

Geopolitical Risks of Korea Peninsula

2017.7.11.

Dong Yong Sueng

I. リスク要因の分析方式

II. 朝鮮半島の地政学的な特性

III. 朝鮮半島発のリスク要因と評価

IV. 対応策

I. RISK要因の分析方式

- 予測可能性

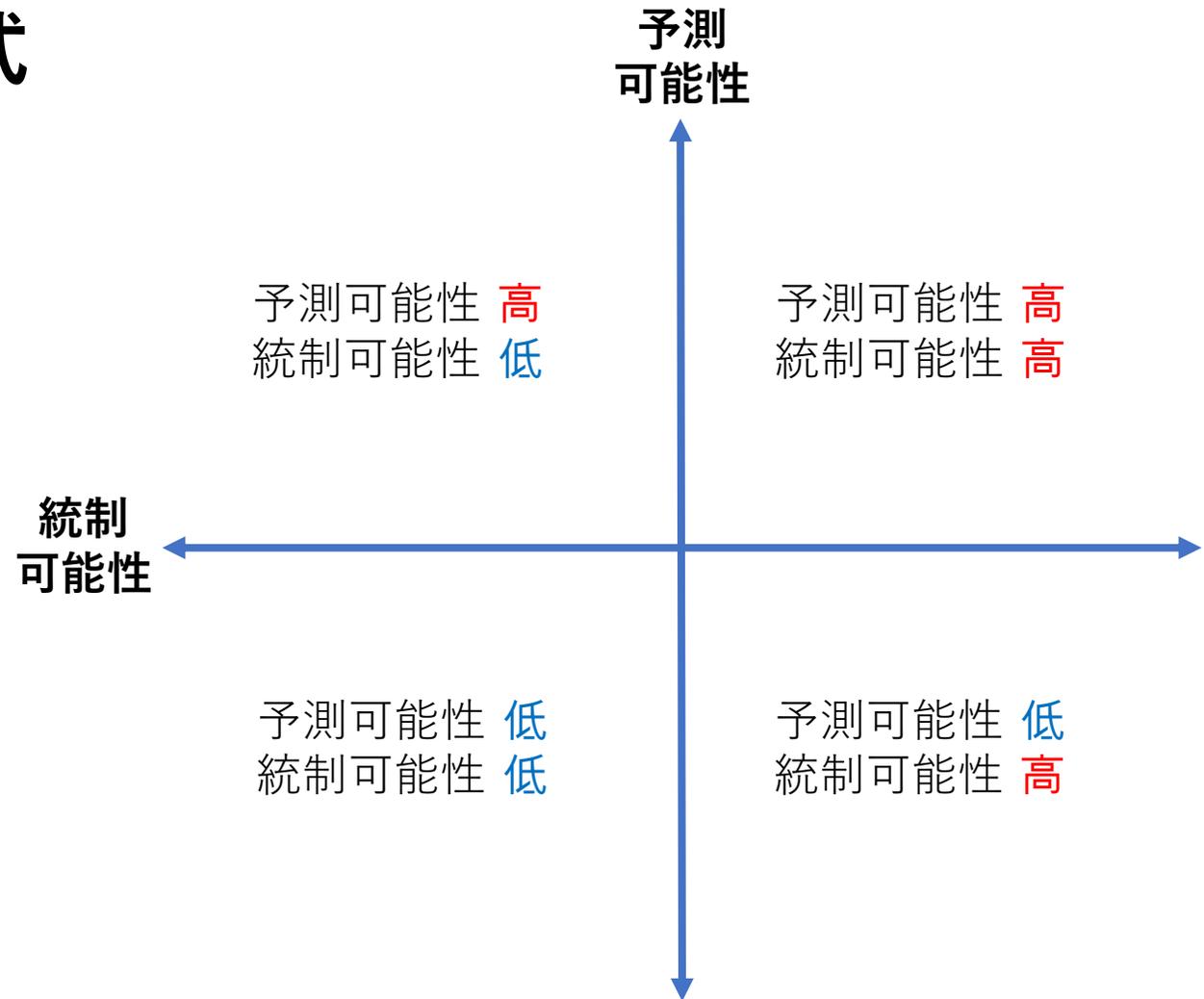
予測可能 : risk ↓

予測不可 : risk ↑

- 統制可能性

統制可能 : risk ↓

予測不可 : risk ↑



II. 朝鮮半島の地政学的な特性

- 東西冷戦(1950年~1990年)
 - ❖ 米ソを中心とした冷戦構造の北東アジアにおける接点
 - ❖ 南北分断と軍事的な対決の構造
- 米中対決(1990~現在)
 - ❖ 巨大勢力の北東アジアにおける接点
 - ❖ 予断を許さない北朝鮮の存在：北東アジア地域へリスクが拡散
- 性格は変わったが、不確実性は変わらず

Ⅲ. 朝鮮半島発のリスク要因と評価

	内部要因	外部要因
北朝鮮 発	軍事挑発の可能性 体制崩壊の可能性	中朝関係の亀裂 米朝間の衝突
韓国 発	政策路線の変化	米中の新たな妥協

Ⅲ-1. 北朝鮮の軍事挑発の可能性

- 経済建設・核武力並進路線を採択(2013.3.31. 党中央全員会議)
 - ❖ 軍事行動の範囲を拡張(朝鮮半島 → 北東アジア、太平洋)
 - ❖ 攻撃から防御へ転換
 - ❖ 「サイバーテロ」の可能性が漸増
- 北朝鮮が先に軍事行動をとる可能性は低下した反面、朝鮮半島内における局地的衝突の可能性は高まった。

➤ 予測不可、統制不可

Ⅲ-2. 北朝鮮体制の崩壊の可能性

- キム・ジョンウン政権の安定性(耐久性)と反比例：**予測可能、統制不可**

		安定的な面	脆弱な面	2017	2014
個人的資質	①危機管理能力	正攻法を採用、組織の正常化	独断的、場当たりの、非妥協的性向 急進的改革に伴う不満勢力の存在	7 8 8	6 6 7
	②社会統合力	党中心体制を確立、金日成式の対民接触、高官クラスによる責任経営			
	③推進力、決断力	チャン・ソンテクの処刑、党大会の開催、核・ミサイル実験			
北朝鮮住民の支持度	④金氏王朝の形成	キム氏王朝の基盤構築、住民の盲目的支持を誘導、王権の強化	新札の弱体化と不満勢力化する可能性	8	6
	⑤階層別の人気	核保有に対する誇り、女性層からの絶対的な支持	非公式ネットワークの形成と拡散	7	6
	⑥経済政策の成果	圃田担当制、企業経営責任制、市場の許容	個人資本家や市場ネットワーク形成中	7	5
国際的状況	⑦対米関係	平和協定を提案、米中軋轢の活用	米国による制裁の強化	6	8
	⑧対中関係	関係修復の契機、中国の対米牽制用	制裁に中国がどの程度参加するか	7	8
	⑨南北関係	韓国に対し平和路線攻勢(民族優先、内部結束)	韓国の対北朝鮮宥和政策	8	6
	⑩北朝鮮への経済制裁	「自立的民族経済」の復元(石炭、食糧生産増加)	米国による制裁の強化	6	7
総 合				72	65

Ⅲ-3. 中朝関係の亀裂

- 中国が北朝鮮を放棄する可能性は低い
 - ❖ トランプ・習近平首脳会談「朝鮮半島は元々中国だった」
 - ❖ 北朝鮮体制の不安定化は中国の不安定化をもたらす
- 中朝国境における緊張の高まりと局地的な衝突の可能性
 - ❖ 中国による国境鉄柵の強化と軍事訓練の増加
 - ❖ 中国を意識した北朝鮮のミサイル発射

➤ 予測可能、統制不可

Ⅲ-4. 米朝間の衝突の可能性

- 米国が北朝鮮に対し軍事行動を起こす可能性は低い
 - ❖ 韓米首脳会談の結果：韓国が朝鮮半島問題を主導 vs FTA交渉再開、防衛費負担
 - 米国主導の北朝鮮制裁は続く
 - ❖ 米朝直接対話の可能性は低い状態
 - ❖ Otto F. Warmbier死亡、中国丹東銀行への直接制裁(secondary boycott実行)
- 予測可能、統制不可

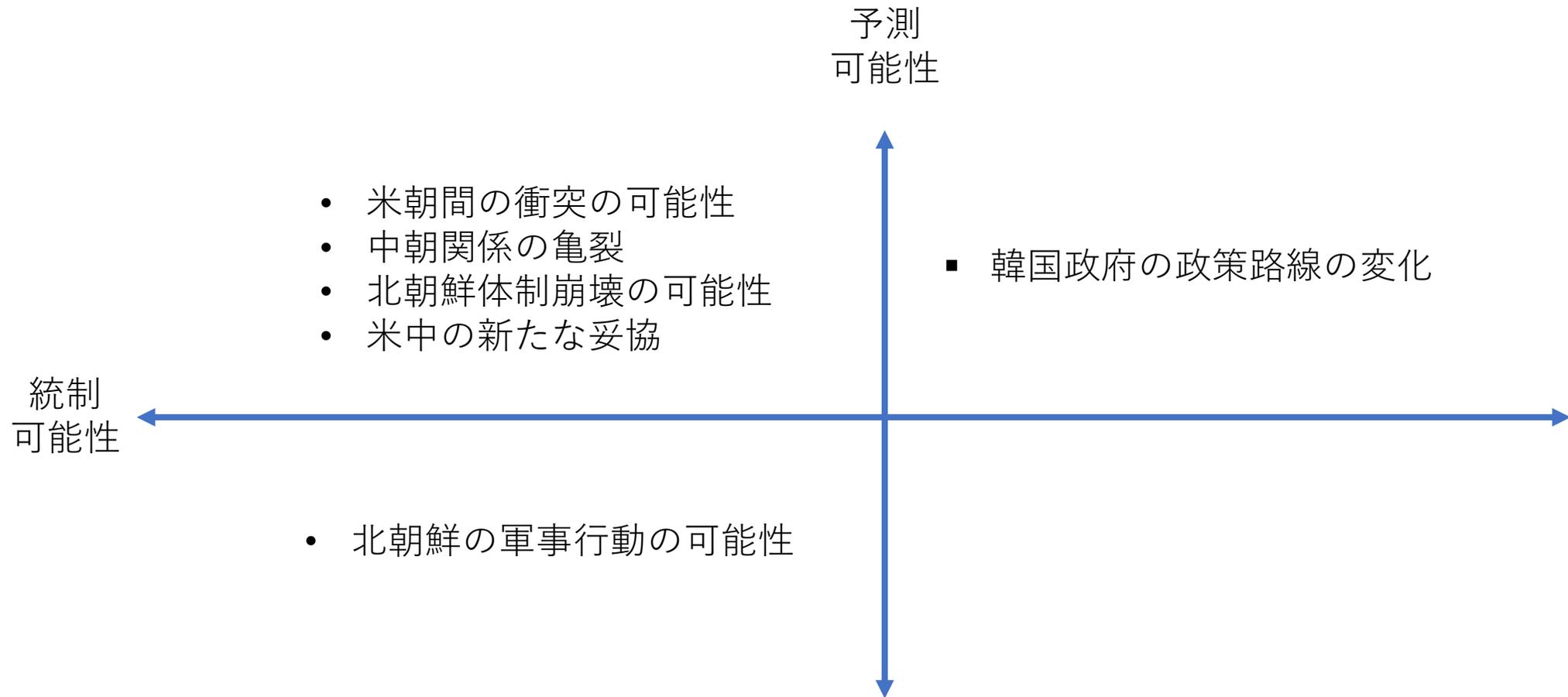
Ⅲ-5. 韓国の政策路線が変わる可能性

- 現状打破を望む革新系の政権が発足
 - ❖ 保守・既得権益層に対する反発
 - ❖ 韓国内にはTHAAD問題、慰安婦合意などに対する反対意見が多い
 - 従来韓米・韓日関係が変わる可能性
 - ❖ 垂直的關係から水平的關係への轉換を模索
 - ❖ 朝鮮半島の安全保障問題における和平の重視
 - 既存の均衡を崩す恐れがあるためリスク要因として働く
- **予測可能、統制可能**

Ⅲ-6. 米中の新たな妥協

- トランプ新政権の「America First」と習近平政権の「中華思想」
 - ❖ トランプ大統領、習近平主席の発言を伝える「朝鮮半島は元々中国だった」
 - ❖ トランプ大統領がFree Riderだと名指しした同盟国：ドイツ、サウジアラビア、日本、韓国
 - 1950年のアチソンライン(Acheson Line)設定の事例
 - ❖ 防御ライン後退の可能性
- 予測可能、統制不可

Ⅲ- 6. 朝鮮半島リスクの現状



VI. 対応策

- 持続的なモニタリングと周期的なシミュレーション
 - ❖ 北朝鮮の軍事的挑発の可能性を除くと殆どが予測可能なリスク
 - ・ 持続的かつ定期的なモニタリングを通じて予測
 - ❖ 問題発生の際の迅速な対応のために組織内で定期的にシミュレーションを行う
 - 個々のプレイヤー(主体)に合った対処シナリオを用意する
 - ❖ リスク(危機)とチャンス(機会) は共存
- 空気のような安全保障問題：在ると当たり前、無いと生きられない

Thank You